

インフラメンテナンス連携シンポジウム in 新潟 (H29. 2. 13)

速報版

～新たな産学官民連携による地域活性化の展開～

主催：国土交通省、新潟日報社
共催：インフラメンテナンス国民会議

- インフラメンテナンス国民会議の活動の一環として、インフラの戦略的な維持管理・更新とともに、地域の活力を維持・向上するための産学官民連携、具体的な市民参画の活動について考える初めてのシンポジウムを新潟で開催
- 一般の方に加え、地元建設業者、自治体、大学、国の関係者ら約270名が参加
- 講演者、パネリストからインフラメンテナンスの着実な実施に加え、地域活性化のためインフラの多面性を活かす重要性が指摘

◇基調講演・情報提供

- 基調講演
『地域で取り組むインフラ施設の長寿化』
長岡技術科学大学 教授 大塚(悟)氏
- 情報提供
『インフラメンテナンス国民会議が目指すもの
～インフラメンテナンス革命～』
国土交通省 事業総括調整官 藤井氏
『農業水利とインフラメンテナンス』
農林水産省 信濃川水系土地改良調査管理事務所長 高居氏



挨拶：中神 北陸地方整備局長
「先人達が築き上げた(社会インフラという)遺産を適切に管理していくことが我々の責務」



長岡技術科学大学 大塚教授
「インフラを地域で守る・発展させるという意識を持つ事が重要」



インフラメンテナンスの
グッドプラクティスパネル掲示

◇パネルディスカッション

- テーマ：
産学官民の連携によるインフラ維持と地域活性化
- コーディネーター：
新潟日報社 論説編集委員 大塚(清)氏
- パネリスト：
長岡技術科学大学 教授 大塚(悟)氏
三条市 市長 國定氏
新潟県建設業協会 会長 植木氏
フリーアナウンサー 遠藤氏
国土交通省 事業総括調整官 藤井氏



未来によりよいインフラを引き継いでいくためには産学官民の主体的な取組・連携が求められている (大塚論説委員)

主なコメント

- ・インフラ整備への理解を深めるだけでなく、八十里越えバスツアーなど地方創生の観点から観光振興にも役立てることが重要 (國定市長)
- ・危険、きつい、汚いなどの悪いイメージを払拭すべく、若い世代向けの現場見学会の実施など業界として本気で取り組んでいるところ (植木会長)
- ・社会インフラの維持管理の重要性を住民一人ひとりがどれだけ「自分のこと」として考えられるかが重要 (遠藤氏)
- ・観光資源など社会インフラが持つ多面性を活かし、公共事業、ものづくりを知ってもらう機会が増えていけば良い (藤井事業総括調整官)